

## 仕事ができる人は タイミングをつかみとる



坂本 敦子

(株)プライムタイム  
代表取締役  
人財育成コンサルタント

人財育成コンサルタントとして十数年、数多くの研修生の方々と真剣に向かい合い、大小さまざまな成功体験や失敗体験を語り合ってきました。その中でビジネスや人間関係において成功や失敗を左右する決め手はタイミングであると同信しました。もちろん、情報量や知識、技術、経験、特定のビジネス能力、人柄は重要ですが、結果を出している人や企業は「最良の機」タイミングを自らつかんで行動しているのです。例えば、「訪問したタイミングがよかったので契約できた」「確認するタイミングがよかったので事故故にならなかつた」「報告するタイミングを逸してしまい、クレームが発生してしまった」等、あらゆる場面でタイミングがビジネスの大切なキーワードとして挙がってくるのです。

私たちは成功したときに「タイミングがよかった」と喜んで、うまくいかなかったときに「タイミングが悪かった」と残念がったり、成否を受け身で語っていることが多いのではないのでしょうか。この解釈ではタイミングは運命的に与えられたものとなってしまう

います。成功している人や仕事ができる人にとって、タイミングは偶然のものやラッキーなもの、ふり返るものではなく、意識するものであり、自らつかみに行くものなのです。つまり、「できる人はタイミングをつかみとっている」のです。タイミングをつかんで成功している人々を分析してみると、共通のポイントがあったのです。それは「何が大切か」という価値観をしっかりと持ち、「自分(たち)はどうになりたいか」「自分(たち)はどうしたいか」「自分は相手とどう関わりたいか」というビジョン、目標をいつも考えているということ。そして、周囲や相手の状況、心の変化をよく観察し、「今、行動しなかつたらどうなるか」を予測判断し、「ここだ!」という機をつかんで行動する勇氣と決断力

を持つています。また、機をつかんだときに最適な行動をとることができスキル、情報、ネットワークも身につけているのです。一つのアクションが最大限の効果を発揮する最良の機(タイミング)をつかんで、最適な行動をとるためには価値観とビジョンが機軸となり、観察力、予測・判断力、行動力・スキルが必要となるのです。私はこの一連の方法を「タイミングマネジメント<sup>®</sup>」として開発し、その研修を行っています。価値観とビジョンはタイミングをつかむエンジンとなるものです。例えば、会社には「安全第一」「品質管理の徹底」といった企業理念がありますが、それらは抽象的な言葉です。「お客様にとつての安全とは具体的にどのような状態を指すのか」「安全はなぜ必要か」「安全を守れないとお客様はどうなるのか」と、そこまで落とし込んで社員全員が理念の意味を共有する必要があります。社員が抽象的な概念をどれほど共有しても、タイミングのよい行動はとれないからです。タイミングよく行動している人や企業というのは、機軸となる価値観とビジョンが具体的に明確です。結果、お客様や市場からも選ばれています。近年、企業の不祥事が頻発していますが、それらの企業はこの機軸となる価値観とビジョンを社員に教育できていないのです。また、タイミングよく行動している人は価値観とビジョンを明確に持っているだけでなく、周囲の状況や相手の行動、相手の気持ちの変化まで、よく観察しています。最良の機(タイミング)はその場、その状況、相手によっても変わるからです。日々、周囲の状況や相手の気持ち、状況は変化しています。それらをよく観察し、今、アクションをとることでどんな効果があるか。とらないうことでどんなリスクがあるかを予測して、判断することが大切です。そして、最良の機(タイミング)をつかんだときに、最適な行動ができるように、日頃からさまざまな情報を仕入れ、技術、知識、コミュニケーション・スキルを磨いておくことが重要です。(談)